

平成30年度まちかどミーティング会議録

開催日 平成30年11月6日（火）

地 区 勇払地区

会 場 勇払総合福祉会館

<当日参加者との意見交換>

○司会 それでは、当日参加者との市政に関する意見交換の時間に移りたいと思います。

多くの方に御発言いただけますよう、発言は簡潔にお一人1件ずつでお願いをいたします。残りの時間に余裕がございましたら改めてお伺いをいたしますので、よろしくお願いたします。なお、町内全体に関わらないような個人的な要望ですとか苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接お話ししていただきたいと思います。また、発言の際にはマイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前を述べてから要点を簡潔に発言をお願いいたします。

本日のまちかどミーティングは、勇払自治会、パルプ町内会にお住まいの方を優先させていただきますので、御了承ください。それでは、市政に関しまして日頃お気づきの点や御意見のある方は挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますか。

◆市民 九区の■■■■と申します。

要望等なのですけれども、この間の地震でブラックアウトになりまして、町が真っ暗になったときに、避難所、南3号ですね。あそこへ向かう途中、前には要望して明かりが欲しいということだったので、建物等には明かりついていました。でも、誘導するところなど、パークゴルフ場の入り口のところ。あの辺には何の明かりもないものですから、大体の位置は頭の中に入っていますけれども、いざ、ブラックアウトになったときに、どの方向に入り口が開いているのかというのが分からなかったものですから。今、ソーラーで付けられる明かりがあるものですから、それを一番に付けていただきたいというのが1つです。

それと、避難所へ行ったときですね、何日かで学校が始まるということで一時閉鎖になりました。そのときに勇払の人は、どの地区へ行ったらいいのか、どの場所に行ったらいいのかをお知らせしてほしいと思います。何か聞きますと、そのときは植苗へという話がありました。それが事実かどうかは、私が直接聞いたものでないですから分からないのですけれども、そういう話がありましたので。そこが駄目なときはどこへ移ればいいのか、それを教えていただきたいと思います。

○司会 ありがとうございます。それでは、市から回答をお願いいたします。

◎危機管理室主幹 防災を担当しております危機管理室の前田と申します。よろしくお願

いたします。

今、今回のブラックアウトを踏まえたお話ということで、2点お話があったかと思えますけれども、まず1点目の避難所までの明かりにつきましては、ちょっとどんなことができるか。今、ソーラーというお話もありましたので、ちょっと具体的にまたお話を聞かしていただいて、どんなことができるか、少し検討させていただけばというふうに思っております。

それと、もう1点目の避難所。今回は建物の被害はもとより、停電があったものですから、避難所を長期で開設をさせていただきました。その中で徐々に復電を、苫小牧市でありますと7日の晩、あるいは8日の早朝にかけて、ほぼ復電をしたという状況がありましたけれども、なかなかまだまだ余震に備えて不安があるという方で避難所の方にいらっしゃった方が多かったかと思えます。

私どもの方でも、避難所47か所、市内に学校等ありまして開けておりましたけれども、だんだんと帰宅される方もいらっしゃいましたので、徐々に統廃合する取組を進めてまいりました。今回は9日の段階でしたけれども、一定程度人数も減ってきましたので、市内3か所に今回は統廃合しようということで、1か所は青葉、大成の公住の関係の会館。もう1か所は北光町の町内会館。もう1か所、東をどうするかというときに、植苗の方にもまだいらっしゃったものですから、今回については植苗のファミリーセンターということで、3か所に統廃合させていただきました。今回は、今回の震災において残っている方、避難まだされている方の状況に応じまして、そういうふうに判断をさせていただきましたけれども、この辺の統廃合のやり方につきましては、災害の状況、あるいは各学校に残っていらっしゃる方の状況に応じて、その都度その都度やっていきたいというふうに思っております。今回については、そういう状況の中で植苗ファミリーセンターの方に、東地区については指定をさせていただいたということでございます。よろしくお願いいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 勇払から植苗まで行くとなると、足がないのですよね。そして、避難する方は高齢者とか、また体が病気がちの人だとか、そういう弱者が多かったものですから。もうちょっとこれからの対策として、もっと近間でできるような、それこそこの福祉会館を利用するとか、パブリックを利用するとか、そういうことをこれから検討課題に入れておいていただきたいと思えます。

◎市長 いや、基本的にね、勇払の最初の避難所は、いなくなったということを前程に判断をしているのだろうと。他の地区はそうだったのですね。各小中学校に行って、だんだんいなくなって、統廃合をしながら1か所という、3か所に絞った背景にですね。そこにいる場合には、植苗に行けというのはやっぱりちょっと厳しいんじゃない。

◎危機管理室主幹 ちょっと少々説明が足りなくて申し訳ございません。今、市長の方で

申しあげましたとおり、今回のもう一つの基準としては、復電して皆さん戻っていききました。そのエリアで復電をしていて、実際にその後、避難所がゼロになったところから閉鎖をしていったのです。勇払の小中学校につきましても、小学校が最後だったのですけれども、実際には9日の午前中でゼロになったのですね。ということ踏まえまして、植苗の方にはまだいらっしゃったのです。それで最終的には今回植苗にしましょうということで、ちょっと状況判断はそういう形でございました。

ただ、今、お話がございましたとおり、その状況状況ごとにどういうことができるか、高齢者の足、そういうことも含めたことにつきましても、今さまざま課題検証しておりますので、今の御意見もしっかり参考にしながら、次にあっては困りませぬけれども、そういったときの事態に備えてまいりたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○司会 それでは、その他にございますか。

◆市民 防災関連の絡みなのですけれども、いいですか。

○司会 はい、お願いします。

◆市民 私、仕事場が真砂町なのですけれども、住んでいるのは沼ノ端なのですが、 と申します。

今回のブラックアウトの関係で、私も会社の方から緊急招集ということで、3時50分に会社の方に到着しまして、業務等々の復旧に当たりました。その際に、私、以前、釧路に住んでいたのですよね。釧路市というのは、津波、地震が多い町ということで、防災行政無線というのがあるのですよ。ただ、私、転勤してきまして、苫小牧って防災行政無線がないのですよ。いろいろその後ブラックアウト落ち着いてきて終わりましたと。一部の市民の方から、あの後、市の方から助成として出ている防災ラジオ、それ持っていないのという話になったのですね。私、知りませんと。転入者はそういう制度があるというのを知らないのですよね。ですから、情報というものは、迅速かつ正確にというのがモットーだと思いますし、やはり沿岸地区、特に苫小牧、新ひだか町、むかわ町等々は、防災行政無線ついているところあります。そういったものを活用しながら、迅速な対応をしていただきたいと。

それともう一つが、先ほど避難所の話の中で一部あったのですが、これは実際の事例です。9月の7日、8日かな、拓勇小学校の、時間が19時7分に避難所閉鎖しますといった際に、私等々の知り合いの者が、食料の方の調達ができかねるという部分で、何とか避難所をお願いできないだろうか。御老人の方だった部分がありましたので、私は善意という部分の中で届けに行ったのです。その際に、避難所閉めるといった際に、ある市の職員の方がこう言いました。避難所これから閉めるのですと。残った食料はいっぱいありました。その食料どうするのですか。処分します。水5年分、5年分というのは5年間有効です。ジャム、60袋ぐらいありました。保存はききます。市長、それは税金をどぶに捨てていると一緒だと思うので

すよね。そういった言動を職員の方がしてしまうということについて、私としては公の職員の方が、そういうことをすべきことではないと思うのですよね。食料を調達したくても調達できなかった、このブラックアウトの起きた苫小牧、買い物難民だってありましたよ。ない方に対して支援するということが大事だと思いますし、また、そこの中で携わっていた、一生懸命頑張っていた職員さんもいっぱいいらっしゃると思います。その方々には、本当に頑張ったぞというねぎらいの言葉を再度かけていただきたいと思いますし、今後の防災、安全対策、危機管理含めた上で対応していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎市民生活部長 防災を担当しております市民生活部長しております片原と申します。よろしく願いいたします。

まず、前段の防災行政無線の関係なのですけれども、御指摘のとおり、苫小牧につきましては、この防災行政無線。実はどうしても苫小牧の防災の考え方が、当初は樽前山の火山の噴火を想定しまして、西側には防災行政無線と、それから外部スピーカーを25か所設置をしております。ただ、この間3.11があり、今回の地震もあり、情報発信のあり方について、今さまざまな手段はあるのですけれども、やはり音声で避難を促すとか、あるいはどういった状況であるということ、今そういう防災対策がどのような状況であるということを音声で知らせるという、その重要性というのを、また改めて今確認したところでございまして。実はこの防災行政無線の整備につきましては、実際に市内全域に、外部スピーカーを使って、情報発信の仕組みを作ろうという取組を今しているところであります。

それで、実は今の無線の方式はアナログ方式なものですから、これが平成34年ですね、2022年までにアナログからデジタルに変わってしまうということで、今はこの防災行政無線のデジタル化を進めようということで、2020年を目途に防災行政無線のデジタル化と、それから市内全域の防災スピーカーの設置を今検討しているところでございますので、そこについては、そういった流れの中で進めているということで、是非、御理解をいただきたいと思います。

それから、避難所の対応でございますけれども、今回、先ほど担当からも申し上げましたけれども、市内47か所当初開けまして、それで徐々に復電した流れの中で閉めていったという部分です、やはり、避難所のあり方、運営の仕方もそうですし、あるいはその閉鎖の仕方、やはりこれは職員のそれぞれの認識といいますか、そこは我々研修を含めて統一していかなければならないという部分を、今、正に内部で検討しているところであります。これはやはり職員一人一人の避難所運営のレベルというのを、ある一定のレベルに持っていかなくてはならない。これも今回の反省点であります。

そういった部分を含めまして、今、さまざまな今回の災害の対応について、市役

所内部で検証しております、その検証の結果についても、市民の皆様にもこういった結果であったということを含めてお示しをしたいなというふうに考えておりますので、是非、今回の避難所運営も含めてさまざまな意見、今日もいただきましたが、是非、皆様からもいただきたいと思っております。それで、この御意見を今後の糧にしていきたいというふうに考えておりますので、是非、また御意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会 よろしいですか。

◆市民 防災行政無線の方が拡充されるまでの間、もし方が一こういう事態がまた起きた場合、先ほども言いましたけれども、防災ラジオですか、一時助成という制度があったと思うのですよね。苫小牧市の職員の方はそれを持ちながら情報を入手しながらやっていました。実際問題、ある某電気店では、約2時間から3時間、電池を買うために並ぶというような状況も光景として見られています。そういった部分の情報を入手する手段というものを、市としていろいろな助成金、それから義援金等を使いながら充実、最終的には防災行政無線に拡充していくという部分を含めた上で、まずできることからやってみようということではできないのでしょうか。部長、どう思いますか。

◎市民生活部長 実はこの防災ラジオでございますけれども、これは3. 1 1のときに、やはり市民に広くその災害の情報等を流すために必要だということで、平成24年に各町内会ですとか、あるいは公共施設ですとか、そういったところに無償配布、それから希望される市民の方には有償で販売をしたという実績がございます、これは実はこの防災ラジオというのは、24年当時まだアナログ式の防災ラジオなものですから、それは一斉に配布なり販売した結果、今、ちょっと市の中には在庫がないのですね、当時の形式のものが。それで、今回、先ほどもお話ししましたけれども、防災行政無線のアナログからデジタルに変わるということで、このデジタル対応の防災ラジオの普及というものも併せて考えていかなければならないと思っておりますので、この間ちょっと今既存の情報伝達の手段しかないのですけれども、デジタル化の際には新たにまたこの防災ラジオの配布ですとか、あるいは販売というようなことも検討していきたいというふうに考えておりますので、そこはまた同じように販売する際には皆さんに広くお知らせしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◆市民 ありがとうございます。

◎市長 今のやりとり聞いていて、防災行政無線は確かに3. 1 1直後に大分話題になったのです。僕が気にしたのは登別市で、登別市は、結構、海岸線、全部ついていたのです。ついていたけれども、当時やはり全部行き渡らないという幾つかの町内会から結構あったのですね。そのときの風とかさまざまな要因で完全ではないなど。当時はアナログですから、デジタルになったらもう少し声を通るのかもしれない

けれども、そういう3. 11のときに、必ずしも防災行政無線が完全ではなかったということは、やっぱり知っておくべきだと思います。

同時に、今のやりとりで一番気になったのは、避難所に行ったときの職員が、そこに備蓄していた、あるいはそこに存在していた食料を処分するっていうことあり得るか、それをちょっと説明すれよ。

◎危機管理室主幹 今回の食料ですね、廃棄するというお話ありましたけれども、私ども防災を担当している者としては、それはあってはならないお話です。もし、それが本当であれば、その認識については改めなければならないと思いますので。先ほど部長も申しあげましたけれども、今、正にそういう検証をしております。その中では、避難対策の中でどういうやりとりがあったかということも、改めて職員の方から聞き取りをした中で、今、おっしゃったことがないように、しっかり検証をしていきたいというふうに思っております。基本的には、そういったものについては廃棄することはありません。もちろんまだ使えるものは、再度備蓄し直して次に備えるということになりますので、今の御指摘については、しっかりと検証してまいりたいというふうに思っております。よろしくをお願いします。

◆市民 そのために、私は証明している、そこに入っていた袋を今日車に積んで持ってきています。中身は出していますけれども、袋は持ってきていますので、担当された方に見せてもらって結構です。

◎危機管理室主幹 よろしければ、ちょっとその辺お預かりしまして、確認をさせていただければと思います。

○司会 それでは、その他にございますでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 六区の[]です。

除雪についてちょっとお聞きしたいのですけれども。除雪の排雪場所とかは決まっているのですか。毎年なのですけれども、市道、このすぐその角に積んでいるのですけれども、ガードレールの車道側に排雪しているのですよね。そうすると、こっちから通勤する人とか通学する人は見えないのですよ。安全確認できないのですよ。それで、反対側、駅の方からトレーラーとか来たら、全然、安全確認も何もできないような危険なだけなのですけれども、春まで残っちゃうのです、その除雪したやつが。いつも除雪の業者に言うのですけれども、あれって除雪の業者が重機一人で来てやっていますけれども、あれでいいのですか。安全確認の人が付かなくていいのですかね。それ、ちょっとお聞きしたいのですけれども。

○司会 それでは、お願いいたします。

◎道路維持課副主幹 除雪担当しております道路維持課道路管理事務所の小田と申します。日ごろ私どもの除雪作業につきまして、いろいろと御協力いただきまして、ありがとうございます。この場をお借りいたしまして、お礼申し上げます。

今、お話ありました排雪場所ということなのですけれども、まず市の除雪につき

ましては、除雪は「かき分け除雪」といいまして、除雪車で道路の雪を左右にかき分けまして、それで進んでいきまして、道路を開けるというような除雪方法を採用しています。場合によりまして、雪質ですとか、去年の3月の雪のように重たい雪は、やはりそういうことで各お宅に置きますと、その後なかなか重くて開けられないということもありますものですから、極力除雪の業者さんによりましては、その雪を持っていきまして、例えば公園の四隅ですとか、交差点の四隅に山のように積んで、まずは道路を開けるという作業をさせていただきました。その後、多分、その雪が高くて見通しが悪いということだったと思うのですけれども、その辺りにつきましては、先ほどおっしゃっていた除雪の際にですね、安全確認ということなのですけれども、各地区にその除雪のお願いしています業者さんのパトロールと、あと、私どもの黄色い車、パトロールをつけまして、除雪した後の状況と安全性というのを確認させていただいていまして。ただ、今回につきましては、多分、そういう雪山が高いということで、見落としているということなのかもしれませんので、今年につきましては、そういうことのないように対応させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

◆市民 分かりました。

○司会 それでは、その他にございますでしょうか。

◆市民 もう一点いいですか。

○司会 違う方で、真ん中の男性の方、お願いいたします。

◆市民 勇払自治会の■■■■です。

有料ごみの捨て方についてちょっと聞きたいのですが、木とか布は大丈夫なのですけれども、ベッドとか椅子に金物の付いたものは取らないと。それを全部外さないと持っていかないというのをちょっと聞いたのですが、それはどうでしょうか。

○司会 それでは、市の方から回答をお願いいたします。

◎ゼロごみ推進課副主幹 おぼんでございます。ゼロごみ推進課の瀧上と申します。

今、お尋ねのありましたベッドマットのスプリングの入ったもの。それとソファですね、これもスプリングがほとんど入っているのですけれども、これらは沼ノ端のクリーンセンターでは、ちょっとスプリングが付いたままでは処理ができないのです。集めた後に破砕機という機械にかけまして砕くという作業に入るのですけれども、そのときにそのスプリングがかたいものですから、市の施設では受入れできないものになってございます。その処理につきましては、市が許可を与えている収集運搬業者、そこに依頼をするか、勇払に清掃社のリサイクルセンターというところがありまして、住所はちょっと今、分かりませんけれども、そこでは受入れをしていますので、そういう形の処理になります。

◆市民 そうしましたら、依頼したら来てくれて外してくれて、

◎ゼロごみ推進課副主幹 収集運搬業者に依頼をすると、金額的にはちょっと高額になり

ますけれども、それを回収しに自宅には来てもらえます。

◆市民 そのまま回収していくのですか。

◎ゼロごみ推進課副主幹 そうです、はい。

◆市民 分かりました。

◎市長 椅子の金具は、椅子に付いた金具は、

◎ゼロごみ推進課副主幹 普通のスプリング以外の金具については問題ありませんので、スプリング自体のそのものがかたくて、ちょっと施設では処理できないという状況になっています。

◆市民 分かりました。ありがとうございます。

◎ゼロごみ推進課副主幹 よろしくお願ひします。

○司会 その他にございますでしょうか。はい、前から2列目の方。

◆市民 自治会の■■■■といます。

一つ市長にお願いあるのですけれども、一つはJRの復旧ですね。これ、今、なかなかJRの復旧できないのですけれども、ぜひ市長がそのイニシアチブを取って、この日高線の復旧をやってもらいたいと。バスで町まで行くのに、コースによっては1時間ぐらいかかるのですよね、時間も、便数がないと。汽車だったら十数分で町まで行けるのですよね。それで急いでいるときは、やっぱりJRがすごく便利だということなので、是非、市長も一生懸命やっていますので、日高地区の首長さんも協力しながら、是非イニシアチブを取ってやってもらいたいと。

それから、人口減少との関係でね、先般新聞報道で官公庁のワーキングプアというのかな、非正規労働者のことが出ていましてね、苫小牧市も1,000人近くいると。200万円以下ぐらいで非正規で働いているということなのですけれども、その中に若者たちがいるのかどうかね。それで、そういう人たちが、結局、結婚もできない、子供を作れないというふうになるのかどうか分かりませんが、非正規で低賃金で働いているということを私は心を痛めております。

それに関して、市長として、この人口減少、勇払も同じなのですけれども、先般市長選挙もありましたけれども、この勇払を、ビジョンとしてどういうふうにしようとしているのかということが、考えとしてありましたらお聞かせ願ひたいと。

それから、市の政策として空き家対策、これ全国的にもいろいろ問題になっているのですけれども、苫小牧市としての政策もあるように聞いたのですけれども、この空き家対策、どうしたものかと。いろいろ壁が崩れているだとか、迷惑がかかっているとか、草が生えているだとかということがあったら市の方に連絡していいのかどうか、その辺もちょっとお聞きしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎市長 僕の方から何点か考え方をお話しして、残すところは担当の方からお答えすることもあろうかと思ひますけれども、人口減少時代に突入したと冒頭でもお話ししま

した。昨年1年間で苫小牧で生まれた赤ちゃんが1,255人だったのです。亡くなった方は約1,650人だったのですね。亡くなる方はこれからどんどんどんどん増えていきます。生まれくる赤ちゃんは毎年100人ぐらいずつ減っているのです。そうすると、自然減がもう数百人のオーダーになります。社会増は今なかなか日本全体のマーケットが小さくなっている。人口減少でということですから、なかなか流入する人口が、何もしなければ、多分どんどんどんどん人口が減っていくということになります。これは自然減。若い人たちが、結婚なんか必要ないって若い人が、そんな問題じゃないだろうと言っているのですけれども、亡くなる方が確実に増えるのは、これ人口構造からいって間違いないことですから、頭が痛い問題です。

そこで、1つは人口減らない町ということをチャレンジしていくために、良質な雇用をたくさん作っていく。道内だけではなくて、本州からも、涼しい北海道で自分の人生にチャレンジしたいと思えるような雇用の場をどれだけこれから作っていくのか。あるいは苫小牧というのは、昔から20代が東京に行ったり札幌に行ったり、流出が非常に多いのです。ただ、ちょっと前までは、それを超える社会増があったので、人口は増えてきたのですね。しかし、今、これからのことを考えると、地元の若い人が地元で人生をチャレンジしたいと思えるようなまちづくりというのをしていかなければならないなというふうに思っています。これは簡単にできることではありませんけれども、地元で生まれた子が地元で就職をして、地元で苦労しながら一生懸命働いて、地元で一生過ごしてもらえるような、そんな町、この町に住みたいと思えるような町を作っていかなきゃいかぬなというふうに思っています。

自然減の拡大を止めるのは、これはもうやっぱりあらゆる手を使って少子化対策をしていますけれども、なかなかこれに歯止めがかからない。結婚したら税金下げるぞと言えば、もしかしたら結婚する人は増えるかもしれないけど、これはなかなか難しい問題だなというふうに思っていますが、人口減らない町にチャレンジしていきたい。人口減るということは、さっきも言っていましたけれども、市の財政のパイが小さくなることになります。そうすると、今までやってきた市民サービスが、あるいは場合によっては劣化するかもしれない。人口減っても市民サービスの深化を目指す。金だけじゃない、知恵使えというふうに内部では言っているのですけれども、そういうところにチャレンジしていきたいなというふうに思っています。

JR問題です。これも非常に頭が痛い問題です。むかわまでは年内ほぼ、目途が付いていますけれども、むかわから先が日高でも奥のえりもとか様似とか、あるいは真ん中辺、昔の静内、日高の新冠とかですね、そことでやっぱり住民の皆さん、首長の皆さんの考え方が微妙に日高、違うのですね、そういうこと。

もう一つは、もう今JRが発表していますけれども、やっぱり地元負担というふ

うなことを言っています。そうすると、今、それぞれの町が人口減少していますから、使えるお金というのはどんどんどんどん小さくなっていく。そんな中でJRを通すために負担をしていくということに対する住民の合意形成ができるかどうかという問題もありますので、我々は今、日高がまだ一本になっていない。町長さんも代わった町もあるというところで、今、新しい町長が誕生して一生懸命合意形成のための話し合いをやっていきますけれども、そういう会にも、東胆振1市4町のオブザーバーとして、むかわ町長は必ず出るようにしているのですけれども、そういうことで情報共有しながら、むかわから先の問題についてはもう少し時間がかかっていくと思いますが、何とかお年寄り、あるいは通学で利用されている方もいらっしゃるの、何か今まであったものがなくなるというのが気分的にも良くないというふうに思っているの、室蘭線については今週の金曜日、岩見沢を含めて沿線自治体協議会というのを初めて立ち上がります。そういう中で、こちらの方も地元負担を苫小牧市民の皆さんの合意形成も含めて、あるいは議会での質疑も含めて、これからある時点では決断をしていかなければならない問題になるのではないかとこのように思いますが、今のところ。ただ、1つ言えることは、苫小牧だけではなくて、東胆振は1市4町の首長で話し合いながら決めようという約束事はできていますので、これからもJR問題は1市4町で合意しながら、協議しながら決めていこうという方向は、これからも続けていきたいなというふうに思っています。

あとはお願いします。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の小山内と申します。よろしくお願いいたします。まず、勇払地区、この地区の今後のまちづくりについてということでお答えさせていただきます。

今後の人口減少ですとか少子高齢化というのは、今までいろいろな場面で説明させていただいているとおりののですが、そういった中でも、市民生活の利便性をなるべく低下させないように今後していかなければならないといったことがございます。それは苫小牧市内、どこの地域でも同じようなそういった課題を持っています。自家用車を持っておられる方というのは、どこに住まわれていても、自分でどこにでも行けるといったことがあるとは思いますが、こういったときにやっぱり一番大変な思いをするというのは、車を持っておられないとか、あとは自分で運転することができないような高齢者ですとか、そういった方々が苦労するというか、大変なことになるかというふうに思います。

その対応策の一つとしてなのですが、今後の方向性というのは、公共交通の利便性をいかに確保していくかということが重要になってくると思います。先ほどJRのお話もございました。苫小牧市民の中でも勇払地区の方は、苫小牧駅の方まで行くといったときに10分ぐらいで行けちゃいます。本当に言ってみれば、中心部からしてみればすごい便利な、住むには結構便利な地域かもしれません。ただ、バ

スに関していえば、結構、真っ直ぐ行かなかったりするバスもあるものですから、1時間ぐらい乗ってしまわなきゃならないという部分もございます。

今後については、JRについては今後も維持をしていくということが、市としてもそういった取り組みを進めていくというのは一つございます。それともう一つが、この辺、東側でいえば沼ノ端地域が例えばスーパーですとか、地域の医療ですとか、ホームセンター、日用品だとか販売する部分では、ある程度集積している部分はありますので、JRはちょっと駅はないので行けないのですけれども、公共交通でいえばバスとか、そういったものの利便性を上げながら日常的な買い物で、勇払地区で手に入らないようなものがあれば、例えば近場でいえば沼ノ端の方の駅の周辺に行って買い物していただくですとか、そういった今後のまちづくりの方向性を進めながら、ここの地域の利便性、人口がもし減った場合についても、利便性を下げないような取り組みをしてまいりたいというふうに考えています。以上でございます。

◎**市民生活部長** 市民生活部の片原でございます。

最後の空き家の問題についてのお話でございますけれども、実は市の方で今年空き家の対策計画というのを今作っております、昨年1年間をかけて市内全域の空き家がどれぐらいあるか、あるいはその空き家の状態がどのような状態であるかということを含めまして全域を調査いたしました、市内に約1,082軒の空き家があると。これは共同住宅、店舗も含めてですけれども、そういった実態が明らかになっております。そういった空き家の中で、例えば放置されていて環境に悪い影響を与えているものだとか、あるいは草だとか木が生い茂って状態が悪いというものもありますけれども、基本的に空き家の処分ですとか、そういった管理の責任というのは持ち主の方にあるということで、そういった空き家があった場合は、私どもを通じてその所有者の方に整理していただきとか、そういった指導をすることができますので、もしそういったものがあれば、市の方に言っていただければよろしいかと思っております。

今現在、その空き家対策計画について、市民の皆様からの意見をもらうパブリックコメントというのをやっております、勇払の公民館の方に市の計画案を置いてありますので、もし時間があれば、今後、市がどのような形で空き家対策を進めていくかという部分も含めて中にお示しをしておりますので、そういった計画につきましても、是非、御意見をいただければというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○**司会** よろしいですか。

◆**市民** 非正規労働者、非正規の意見について、市の職員の非正規。

◎**総合政策部長** 総合政策部長の福原と申します。

官公庁、市の職員の非正規ということで、ちょっと今日総務部が来ていないので、私の方で大枠的な考えをお話しさせていただきたいのですけれども、市役所に限ら

ず官公庁、いろんな行政改革を進めていく中で、職員も減らしながら仕事を充実をさせるという取り組みをしてきました。もう一方で、団塊の世代の方々が定年退職をしていくのと同時に、年金の受給が遅れる中で、60歳定年から再任用という形で、今65歳までというような中で、そういった人の職員を減らしつつ、年金受給までの再雇用という制度も取り入れながら、今現在、来ているところでございます。

ただ、どうしてもそういった中でいろんな仕事が広がるというところで、今お話のあった非正規という職員の方にもいろんな仕事をしていただいているというのが、これ苦小牧市役所に限らず、実態だと思います。今、単純な臨時職員だけではなく、期間付きの、例えば3年間とかという、こういった仕事を3年間でやらなきゃならないので、こういった仕事をやってみませんかというような職員募集もしたりして、それは賃金は普通の臨時職員よりは高い設定にしているのですね。そんな中で、どうしても要は費用を抑えつつ公共サービスをやっていかなければならないという、こういった関係の中で行政運営をしているというところが、現在の官公庁というところでございます。

ただ、お話のありました非正規対応というのは、これ官公庁に限らず、いろんな民間企業も含めて社会的な問題といたしますか、課題というところにも現在なっている状況もございますので、いろんな部分で雇用の維持とか賃金の上昇の中で市は何ができるかというのは、これからいろんな視点で考えていかなきゃならないというふうな問題だというふうに認識をしております。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、その他にございますか。はい、お願いいたします。

◆市民 六区の[]です。

トレーラーの通行制限とかかけられないのでしょうかね、時間的に。朝2時間、夕方2時間とか。皆さんこちらに来るときに気付いたかもしれないけれども、駅前からその坂の頂上を下りるまで道路にクラックが入っていますよね。あれ、40トン超のトレーラーが通るようになってからああいうふうになったのですよ。それで、その坂の下、住宅街の公園の角と、下りたそこにも横断歩道がありますよね。トレーラーというのは、自重が40トンぐらいあるものですから、惰性つけないと上がってこれないのですよ。そのスピードで来たら、横断歩道に人いたら、まず避けられないよね。そんなの何回かあるのですよ。それは通勤時間の例えば7時半から9時とか、あと学校の下校時間、2時から4時ぐらいまでとか、規制かけられないのでしょうかね。ただでさえそこは、今、勇払で買い物してくれるのはうれしいのですけれども、セイコーマートに止めていただくと、今度、横から出る車が出られないのですよね。通勤時間なんか、北電に通勤する車がいっぱいいるものですから、それにトレーラー来たら、もう全然身動きできないのですよ。そういうの何とかなりませんかね。

○司会 回答をお願いいたします。

◎安全安心生活課長 交通安全を担当しております安全安心生活課の野水と申します。お願いをいたします。

今、お話伺った、まずちょっと場所の確認をさせていただきまして、道路の規制ということになりますと、これは警察、公安委員会の判断ということになりますので、そのような対応で市として要望ができるものか、ちょっと御検討をさせていただきたい。あと、その道路によりましては、今の場所は東港の方へのということですので、道路を違う道を迂回させるですとか、そのような方法も検討の一つかとは思いますが、しっかりと場所を伺って、警察等とも協議をしながら、皆さんのお声をちょっと伺って対応を図っていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

◎市長 五、六年前から見たら大分減ったしょ。

◆市民 良心的な人は、シングキ通りから旧道に出るのですよ。

◎市長 本当は向こうに新しい道路ができたので、向こうを本当は通ってほしいのですが、どうしてもこっち来ちゃうのですよね。

◆市民 何か燃費の関係でしょうね。それでね、そこを坂だから本当に、さっきも言ったけれども、惰性をつけてくると、坂の上り切った下に横断歩道ありますよね。そして、横断歩道の先に信号があるから、万が一があったら、もう手に負えなくなっちゃう。それで、こっちからね、通学してもらえれば分かるけれども、道路の右側に駅の方に向かって歩道ありますよね。トレーラー来たら物すごい恐怖を感じますよ。

◎市長 以前はですね、そのトレーラーが所属している会社さんに要請したこともあるのですよ。大分減ったって僕は聞いていたのです。当時はばんばん通っていたのですよね。まだ気になりますか。

◆市民 気になります。道路の傷み方が半端じゃないです。もうクラック入って、何ぼもしないうちに、あれ全面改修しなきゃなくなっちゃう。明るいとき見てください。

◎市長 あの橋だって制限あるのでしょうか、勇払橋。

◎総合政策部長 すみません。今、市長からもお話がありましたですね、東港にコンテナターミナルを移転して、トレーラーって、多分、コンテナ積んでいる車ですよね。

◆市民 そうです、実車です。

◎総合政策部長 それで、東港に移転をしたのと同じ時というか、ほぼ変わらず、道道上厚真を西港から橋を作って、苫東の横を通過して、東港のコンテナターミナルに行くような道路も併せて作ったのですけれども、今、お話があったようにですね、ドライバーの方は、結局、勇払橋を通過して海岸線に行くのが近いというのがあって。ただ、それは以前から勇払地区の方からの、今のようなお話とか、うるさいとか、振動があるということで、苫小牧港管理組合の方で、トレーラーが何台走っているのだと

かの調査だとか、あとはコンテナ車を保有しているとか運行している会社に、市や苫小牧港管理組合からも、基本的には東港に行くのは道道上厚真を通ってくれというお話をずっとしてきているのです。もう一つは、勇払橋があれ20トン規制があって、物を積んでいると基本的にあそこ通れないですよ、重たい物を積んでいたら。ただ、空っぽだと20トンないので、結局、そっちへ行っているのが、また今もあるのかもしれない。

こういったお話を今日いただきましたので、苫小牧港管理組合の方にもお話をし、ですね、数年前からの、これ、そういった業界にもお願いしている案件ですので、今の状況、それと今後もそういった住まわれている住民の方を考えた、今、お話のあった朝夕はもちろんですけれども、基本的には道道上厚真を通るという基本のところをもう一度確認するように伝えますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○司会 それでは、そのほかにございますでしょうか。大体1時間程度を予定しておりますので、時間的にはよろしいかと思ひますけれども、最後にどなたかいらっしやいましたら、お受けしたいと思います。

◆市民 なかったら、1つお願ひ。

○司会 はい。

◆市民 なかったら本当にお願ひ。苫小牧は職住分離という政策をもととは採っていたのですけれども、それで今東西で交通渋滞が多いと、通勤自体。結構、トヨタなんかにも来ている従業員は多いのですよね。それで、勇払の将来を考えたら、是非、職住近接でね、勇払地域に住宅が張り付くような施策を採っていただいて、そうしたら交通渋滞も相当緩和はできるのかなと、勇払も人が住めるようになってよくなるのでないかと。それで、勇払、沼ノ端の間が確か工業専用地域ですよね、地域指定はね。せめて準工業地帯にでも変えてもらおうと。そうしたら事務所や住宅も一緒に建てられるようになる。そうしたらまるっと飛び地にならないでね、町もつながるのかなというように、是非、検討していただけないかと。これ、確か毎年こういう話になったら出るのではないかと思うのですけれども、是非、よろしくお願ひいたします。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の小山内です。

今、言われていました、以前は職住分離ということで、西側に住宅系、東側に工業系とやっていたところを、職住近接ということで、沼ノ端の方を住居系ということで区画整理もしてきたという経緯もあります。勇払でいえば、正にこの地域なのですが、昭和50年代に区画整理をして住宅が、住むような地域になっています。そういう意味では、勇払というのは職住近接のはしりをいっていると言えはそういった地域でございます。

あと、沼ノ端、勇払間の工業専用地域ですね、一般住宅が建てられない場所。そちらについては、今後、先ほどから申し上げているとおり、人口が減少するという

時代に入ってきていますので、既に設備投資といいますか、道路ですとか上下水道だとかといったところの整備をした地域がある中で、新たな市街化、住宅地を作るといことが、なかなか難しいといった現状としてもございますので、その辺については、今の現状の中で住めるところで人に住んでいただきながら、できれば勇払で働く方はこの勇払地域で住むだとか、そういったこともしてもらいながら、現状の中でまちづくりを進めていかなければならないというふうに考えてございます。

◎司会 よろしいですか。はい。それでは、以上で終了したいと思えますけれども、よろしいですか。それでは、これで当日参加者との市政に関する意見交換を終了させていただきます。

最後に、終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 大変に御熱心に御意見、御質問いただきましてありがとうございます。特に地震直後ということもありまして、防災、減災に関わる御心配をされている皆さんが多いので、できるだけ早く災害に強い苫小牧、同時に万々が一被害が発生しても、復旧が早い町というものを目指していかなきゃいかんなどというふうに思っております。いろいろと今検証作業を段階的にやっていっている最中でありまして、

僕が子供のときは、勇払というのは本当に栄えてゴルフ場まであったのです。沼ノ端は何にもなかったのです。それでゴルフ場が移転し、さまざまな状況の中で、今日もありました、これからこの地域どうするのだということを思われる方のお気持ちはよく理解もできます。今、沼ノ端全体としては人口が3万人に達成した。昔は航路下で航空機騒音がうるさいところで、しかも地盤が悪くて、あんなどころ人住めるわけないだろうと言っていたところが、今一番人口が伸びている地区になりました。20年ぶりに苫小牧に来た人が、新千歳空港を降りてずっと国道を来ると沼ノ端の変貌ぶり、一番びっくり、何これっていうような驚きを示します。それは、基本的には職住分離から職住近接に政策転換をした背景がそこにもあります。同時に、勇払どうするかという問題が、私自身もいつも気になっている問題の一つでありますので。日本製紙さん、昔は国策、十條時代からそういうことで地域を支えてきたところでありまして、9月になりますか、私も日本製紙さんの御本社へ行きまして、その跡の利用等について、今日、たまたまバイオマス、双日さんとのバイオマスの件が企業立地審議会にかかりましたけれども、これだけではなくて、日本製紙さんも今いろいろ御本社、東京の方でさまざまな案を練っておられまして、年明けには一定の考え方を示していただけないかというふうに考えていますが、我々はそこに手を突っ込むわけにはいきませんので、日本製紙さんの今後の方針に向けての第一報を待っているところでございます。場合によったら、物流拠点形成とかさまざまな話は出ていますが、まだ内容についてははっきり伝えられていません。

それやこれやも含めてですね、今後はやはり日本製紙さんがこれからどのような

方向に行くのかということが、直近、近未来に向けてですね、この地区の次の手をどう打つべきなのかということにつながっていくのではないかとこのように思っていますので。是非、我々も機会があったら、多分、年末にもお伺いすることになるかと思いますが、そういう苫小牧全体としての大事なところでもありますので、そういう声を御本社の方に届けていきたいなというふうに思っています。

それやこれや、まだまだ御心配なところはありますけれども、一日も早くこの地域のこれからに向けて、何か具体的な動きが出るように、我々も一生懸命取り組んでまいりたいとふうに考えておりますので、是非、一定の時間をいただければというふうに思います。

むすびになります。最後までお付き合いをいただいた皆様方に、改めて心から御礼を申し上げ、最後の御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了させていただきます。本日はありがとうございました。